

平成29年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 大村市上下水道局	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道施設課 日置 恵介 TEL:0957-54-3110, FAX:0957-49-5220 jousuikanri-c@city.omura.nagasaki.jp
代表者氏名 大村市上下水道事業管理者 朝長 定	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】

部門名 (2) 広報部門 ① 行政広報部門	事例名 ワークショップ型プログラムによる下水処理場見学の実施
--------------------------	-----------------------------------

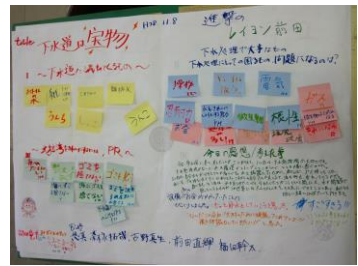
事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい)

◆大村市の下水処理場である大村浄水管理センターでは、通常の1時間ほどの見学においては、パワーポイントやパンフレットによる説明と現場見学といった内容で施設の案内を実施している。

今回、市内の工業高校化学工学科から2時間の講義依頼があったので、下水処理場に対する理解を深めるための講義をワークショップ形式で行い、作業の合間に講義説明や現場見学を盛り込んだプログラムで実施した。

◆学生達の多くは、ワークショップのような体験は初めてであったが、グループ内の会話を中心に机上での作業を通してたくさんの笑顔が見られ、楽しく受講していた。内容も比較的難解なものは避け、テーマを絞ったこともあり、多くの意見を付箋紙に書き出してくれた。最後には活気あふれた各班の発表が行われ、発表者の個性あふれるパフォーマンスに大きな歓声が上がった。

我々職員も、想定以上の学生達の反応に驚かされ、感心し勉強させられた。



エントリー事例の特徴 (施策等そのもの特徴ではなく、施策等を発信する広報戦略及びその効果が優れていると考えている点を明記願います)

◆下水処理場見学において、2時間に及ぶ一方通行の講義説明では、高校生の興味を持続させることは難しく、今回のようなワークショップ型プログラムを実施した。下水処理に対するより多くの関心を集めることができたものと考えられ、高校生の正直な生きた感想も目や耳にすることができた。学習手法としての評価も、学生達、引率の先生方ともに良好であった。

◆普及率が高まる中で下水道事業の重要性を継続してPRしていくために、今回のような小さな取組でも、下水道への理解を深める情報発信として一定の効果があったと考えられる。プログラムには改善の余地が多くあり、今後も様々な形で活用できるように修正し展開していきたい。

付属資料の提出	(あり) ・ なし (どちらかに○)
---------	--------------------